添付資料：　(発表論文 Yoshioka *et al. Sci Rep* (DOI: 10.1038/srep00783)より転載)

図１．レーザーで切り抜き回収された組織断片の例。神経細胞を緑色蛍光色素で標識してある。研究者の思い通りの形で組織断片を切り抜くことができ、なおかつ、回収された組織にレーザー光のダメージが無いことを示している。

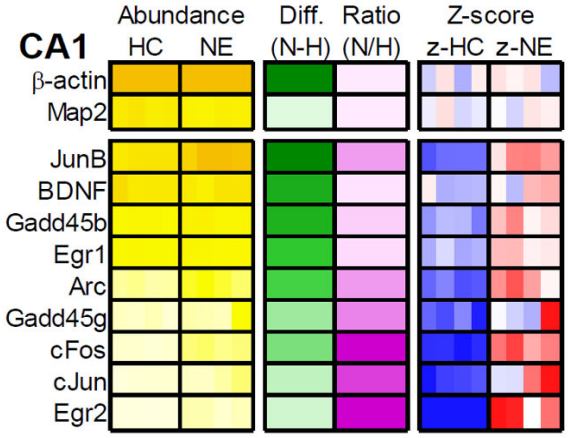

図 2.　LMD-RTqPCR 法より明らかになった、マウス大脳海馬 CA1 領域の最初期遺伝子活性化パターン。それぞれの色が濃いほど、各項目の値が大きいことを示している（Z-score の赤は正、青色は負の値を示す）。存在量(Abundance)が大きいほど、発現増加率(Ratio)が低いことがわかる。両者の関係がべき乗則に一致することは、今回の絶対定量法により初めて明らかになった。